

業務部速報



No. 78

発行 25. 11. 14

JR東労組 業務部

慢性的な要員不足が深刻化する中で奮闘している組合員・社員の努力に報い、
申8号 モチベーションの向上を求める年末手当に関する緊急再申し入れ

団体交渉を行う！（その2）

中央本部に寄せられた声を訴える！

支給額ではない！年間6ヶ月を求める！

今物価高なので物価の上がり幅についてきてない。最低6ヶ月だが、それ以上もらいたい／物価高ということを考えても、多く貰えているとは思えない。支給額が増えたところで物価高に比例していないので、減額に近い／そもそも物価上昇分の賃金を頂いてませんのでせめてボーナスでカバーしてほしい／毎月の物価上昇により生活必需品は値上がりしている中で実質賃金下がっている。月を追うごとにその差は広がっていて物価上昇に対応できていないのが現実／物価が上がっているなか、金額で比較すること自体おかしい／物価高も過去最高なのだから掛ける月数が高くなければ実感はゼロに等しい／支給額ベースで算定されてしまえば、物価上昇等を考慮したベースアップの効果が薄れてしまう／支給額はベア、昇給で上がれば自動的に上がるので、月数を変えなくても上がることになる／「支給額」は会社がどのようにでもコントロールできる。基準内賃金が増えたから「このくらいでいいか」と支給月数を決めていけることから、費用のコントロールの側面が大きい。自分の頑張りが実感できるのは手取りではなく支給月数／社員数や社員の年齢構成を考えれば平均支給額は上がって当然である。／年間6ヶ月をどうしても払いたくないのかと思う。収益が良くても貰えるものが増えないとモチベーションは上がらない／6ヶ月を受け取るだけの仕事をしている／年間6ヶ月ボーナスだと求人を見て入社した若い後輩たちにいち早く6ヶ月以上の数字を経験させたい／コロナ前より要員は減っているにも関わらず収益はほぼ戻っているのだから年間6ヶ月以上は必要

社員もステークホルダーだ！社員を大切にすべきだ！

「社員のみなさん」で社長は、株主だけでなく社員やその家族という言葉を使っているが、そもそも還元の順序が違うのではないのか。還元は利益を生み出しているところから還元すべきではないのか／株主への配当も大事だとは思いますが、会社を発展させているのは現場で働いている社員なのだから我々に還元すべき／会社はステークホルダーという言葉をもっと使っていると思ってしまう／全てのステークホルダーに対する還元は平等にすべきだ／四方よしの経営というならば社員と家族の幸福に対して還元してほしい／株主に配当することは大事なことだが、好調な収入を確保しているのは社員だ。現場で汗して働く社員にも好調なら支払うべきだ／どんなに苦労しても私たち社員ではなく、株主に還元されてしまえばモチベーションは上がらない／株主が100億円で社員が33億円では納得できるわけがない／社員と株主で差がついてしまうのは驚きだ。誰が頑張っていると思っているのか。これではモチベーションも向上しないし、離職者も出てしまうのではないのか／株主、お客さまと言うが、ここまで蔑ろにされたら仕事のモチベーションは下がるばかり。対応レベルは下がり、結果株主やお客さまから見放されてしまうと思う／働いているのは株主ではなく現場の社員だ／社員を大切にしない会社には未来がない／会社は社員ではなく株主しか見ていない。社員を大切にしない会社は発展しない／社員への労いを感じられない／社員がいないと企業は成り立たないことを重く受け止めてもらいたい／株主のおかげで業績が良くなったのではない、組合員、社員のおかげだということをもっと考えるべき／ステークホルダーとして非常に頭にくる。上方修正し株主配当を増額したのに、その好調な業績を生み出した社員には還元しないなんて、本当に社員を大事にしない。怒りしかない